第4回桜川市観光協会中長期計画策定委員会会議

3月17日（水）19:00～

桜川市役所真壁庁舎　3310会議室

出席者：井上委員長、林副委員長、尾見理事、飯島理事、菊池和子、吉田寛治、鈴木孝和、西岡勇一郎、浅賀順子、田中宣寛、渡辺主事、田中主事

これまでの経緯

会議3回、ワークショップ3回

・会議の中で、桜川市にどんな資源があり、それらがどこにあるのか知りたいということで、ワークショップや勉強会を開催した。

その成果として、観光資源のデータベース化を行った。

27年度からは本格的に計画づくりを行う。データベース化したものを活かして27年度に何を行うか決める、ということが今回の会議の課題。

・飯島：何をもって中長期なのか？

・井上委員長：桜川市が5年後、10年後どのような方向に向かうか考える。

・渡辺：最終目標は計画を策定する事。計画を策定するに当たり、まず市の観光資源をよく知ろうということで行ったのがワークショップや勉強会である。

・飯島：人口を増やすのか、観光資源を増やすのか、そこを決めないとあいまいになる。

・吉田：益子町のやり方は観光のやり方がうまい。

・井上委員長：先が見えないというが、先を見るためにどうするかが大事である。

・菊池：まだ知らない資源がいろいろある。資料に載っていないものもある。例：巨樹（富谷、本郷など）

・吉田：点でとらえず面でとらえないとうまくいかない。

・井上委員長：自分たちが市のことを知らないと、外部に発信できない。

・吉田：実際に歩いて地元の人に話を聞かないとわからない。

・鈴木：笠間では大きな観光マップを作っている。今後のためにまず見所・年間行事などを掲載した巨大なマップを作ったものを作ってはどうか。データでとれるものを。

・林：先が見えないのは当然である。桜川市にはいろいろな資源があるので、その中でよそから来た人が珍しいと思うものは発信の仕方によって、それが好きな人にお金を落としてもらえる状況を作り、もらった分は資源の保護に回しせばいいのでは。今のところは観光で商売が成り立つ状況にないが、今後は産業の一つとして観光を取り込めるようになればいい。自分たちが自分たちの良さを見つけて外から来てもらうやり方が時代に合っているのでは。地域が知っている良いところと、外から見た人が感じるいいところをリストアップしてみるといい。

・尾見：自分の町でこういった活動をするのが難しい。まわりの観光地は規模が違いすぎてつかみどころがない。観光＝お客さんに来てもらってお金を落とすことであると思っていた。それが観光に関わる人が知恵を使わなければいけない部分である。

・井上委員長：桜川市の観光に関する目的を定めるのが中長期計画の目的。

・渡辺：海士町の資料の説明。桜川市にもビジョンが必要である、観光資源をどう生かすか、目的を達成するためには一人一人がどうしたらいいか決めているのが海士町、ということを説明。

・吉田：何か魅力を見つけて発信すれば人はやってくる。

・井上：山、川、田園風景は市内のどこにでもある。それらの風景が外から来た人にとっては武器になる。計画は分厚いものでなく、だれが見ても観光協会が目指す姿がわかる一枚のものでいい。

・尾見：ホームページを作れば計画はいらないのでは。情報を集めて公開すれば委員会は必要ない。

・鈴木：まちづくり策定委員会をやっていた。これからの岩瀬町で何をすればいいかを決める会議。5人くらいの班でいくつか集まって決める。計画を立てるならば、全体で会議するよりも、メンバーを決めて班ごとに話し合う方がまとまると思う。

・井上委員長：みんなで情報共有を行い、その結果として計画が生まれる形にしたい。自分が知らなかった資源を発見できるという今のやり方はとても勉強になる。

・林：今日の会議はどういう会議なのか

・渡辺：27年度はどのように進めていけばいいか、意見を出し合っていただきたい。

・提言を出さないとうまくいかない。

・情報共有の場としてやっていくとなると、毎回きっちりしたテーマを考えておけば、意見がまとまりやすい。

・西岡：計画策定するなら私は辞める。

・中長期計画策定員会で決めた計画を、観光協会に守らせる権限がない。

・「桜川市の観光の未来を考える会」